

# 子どもが生き生きと学ぶ社会科指導の工夫

—— 資料活用能力の育成をめざして ——

目 次	
I 研究テーマ設定の理由	65
II 子ども達が生き生きと学ぶ社会科学習とは	66
III 生き生きと学ぶための資料活用能力の育成	66
1 社会科における学習資料	66
2 資料の分類と特性	66
3 指導過程における資料の位置づけ	67
4 資料活用能力を育成するために	69
(1) 資料活用能力とは	69
(2) 学習指導要領による資料活用能力の育成	70
(3) 資料活用能力を高める工夫	71
IV 授業実践例	72
1 単元名	72
2 単元について	72
3 単元目標	73
4 単元構造	73
5 指導計画	73
6 本時の展開	77
7 授業の記録	78
V 研究のまとめと今後の課題	84
1 まとめ	84
2 今後の課題	84
<主な参考文献・引用文献>	84

浦添市立沢岬小学校教諭

中 村 ひで子

# 子どもが生き生きと学ぶ社会科指導の工夫

——資料活用能力の育成をめざして——

浦添市立沢岬小学校教諭 中村 ひで子

## I テーマ設定の理由

科学技術の急速な進歩と経済の発展は人間の生活を大きく変化させている。今後ますます変化するであろう社会に生きて行くためには、「社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」や「自ら学ぶ意欲」の喚起が望まれている。学校教育においても、主体的に学習に取り組む意欲的な子どもの育成が求められる。教えこみの授業から脱却し、「知りたい、わかりたい」子どもの気持ちを重視する授業への変換が急務となる。

社会科の目標は、社会的事象をとらえる過程で、観察力・資料活用能力を養い、社会を見る目・考える力・判断する力を育てることにある。社会科の学習の中で、子ども達は、観察・資料を通して様々な社会事象を学んで行く。その追求の過程で、どのような資料を求め、資料からどのような事を読み取って行くか、読み取ったことをどう考えるか、資料活用能力が社会科学習の深まりを左右する。子ども達の主体的学習・学ぶ意欲を志向する上でも、資料活用能力の育成は指導上の大きな課題となる。

このような観点に立って、これまでの学習を振り返ってみたい。

子どもたちを受け身的な学習態度から脱却させるため、興味・関心の持てそうな教材を見つけ、作業的学習を多く取り入れるなど、様々な指導上の工夫を試みてきた。その結果、学習内容に興味を示し、資料を求めて図書館に向かうなど、喜んで調べ学習に取り組む子どもが育ってきた。ところが、指導や助言・援助を怠ったりすると、課題解決にはそぐわない資料を見つけてきたりする子がいる。また、まとめ上げた内容を見ると、事実の羅列や参考書の丸写しであったり、記事と記事の関連がはっきりしないもの、自分の意見の欠落したものが多く、資料を活用する方法が十分身に付いていないことがわかる。

その原因を考えると、

- 1 一人ひとりの子どもにきちんとした課題意識を持たせていない。
- 2 課題を解決するための資料収集の仕方や資料の読み取り方の指導が十分になされていない。
- 3 調べたことのまとめ方・表現の仕方への助言が適切でない。

など、指導上の問題点が浮かんでくる。子ども達に生き生きとした意欲的な学習態度を望むとき、ふだんから意識的にその基礎となる能力を育てていかなければならない。

以上のことから、資料活用能力の育成を目指す指導の工夫が必要となる。子ども達が、課題を見つけるとき、また、課題を追求するとき、適切な資料を収集・活用できるようにすること。資料の見方、考え方をしっかり身に付けさせること。読み取ったことを適切に表現させること。資料活用能力が身に付けば、課題を見つけ、その課題を解決するための学び方がわかり、生き生きと学習に取り組む意欲のある子が育つのではないかと考え、本テーマを設定した。

## II 子ども達が生き生きと学ぶ社会科学習とは

学校は本来、子ども達のためにあるはずである。しかし、現実には、教師から知識を伝達されるものという意識をもって授業に臨んでいる子が多い。受け身的な学習からは、生き生きと学ぶ子どもは育って行かない。子ども達が、与えられる学習から脱却し、自ら社会的事象を追求しようとする姿勢をもってこそ、学習したことが真に自分のものとなって生きてくる。社会科の学習が好きで、興味・関心をもって学習に取り組める、やる気のある子どもを育てることは、学習効果を高める上でも大切なことである。子ども達は授業の中で、自分の持てる力を精一杯発揮し、わからなかったことがわかるようになり、できなかったことができるようになることにより、自らの成長が確認でき、成就感を持つ。その体験を積み重ねることで、子ども達は学ぶ喜びを知り、生き生きと学ぶようになるであろう。

生き生きと学ぶ子どもの姿を次のようにとらえたい。

- 常に身の回りの社会的事象に興味・関心を向けている。
- 身の回りの社会的事象を発見的に、課題意識をもって見つめることができる。
- 課題を解決するのに必要な資料を収集し、的確な情報を取捨選択するなど、解決のための調べ方がわかる。
- 学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学習を進める。
- 自分の考えを持ちながら、友人と互いに磨き合い、より確かな認識を築いて行ける。
- 調べたこと、話し合ったことを自分なりに解釈し、自分の表現でまとめることができる。
- 既習経験を元にしなが、自分の持てる力を十分に発揮し、さらに諸能力を磨いている。

このような子どもを育てて行くためには、学び方をしっかり身に付けさせなければならない。そのためにも、社会科の学習を進めて行く上で特に大切な能力の一つである資料活用能力を育てていくことが大切だと思う。追求意欲を持たせるためには、1時間で問題が解決する学習ではなく、わからないことを残して置くオープンエンドの授業を構成すること。また、一単元で一つの概念形成をめざす一単元一サークルの学習過程を考慮することが有効と思われる。

## III 生き生きと学ぶための資料活用能力の育成

### 1 社会科における学習資料

社会的事象は、時間的空間的広がり、深まりを持っている。社会科の学習は、取り上げる社会的事象を具体的に把握する事で社会生活を理解するものであるが、すべてが直接に観察できるものではない。社会的事象を総合的にとらえることができるように、直接に観察できない社会的事実・事象に関しては、作り替えて、間接的観察ができるようにしなければならない。見えないものを作り替えて、見えるように教育的に配慮したものが学習資料である。学習資料は、学習目標を達成するために用いられるもので、収集・選択・作成を通して活用される。学習の根拠となる材料であったり、学習を効果的に進めるための補助的材料である。社会的事象を分析・総合・意味把握のための実証の手掛かり・裏づけになるものと言える。

### 2 資料の分類と特性

学習に使われる資料にはどのようなものがあり、どのような特性があるのかをつかんでおくことは、資料を効果的に活用するために大切なことと思われる。

種類	例	特性
文章資料	教科書、副読本、参考書 資料集、事典 年鑑、雑誌、新聞 パンフレット、伝記文学作品、民話、児童の作文	○くり返し読むことができ、事象の背景、推移がつかめる。 ○新聞、雑誌などは、新しい情報が得られる。 ○文字を読むことに抵抗感を持つ子が多い。
視聴覚資料	スライド、写真、絵はがき 復原図、掛け図、ビデオ、 テレビ、映画、OHP、 ラジオ、録音テープ、児童 の絵、紙芝居	○学習への興味・関心をおこさせ、学習意欲を高める。 ○事象をイメージ化しやすい。 ○臨場感を持つ事ができる。 ○具体的で、細かい観察を可能にする。
統計資料	図、表、グラフ、 年表 地図、絵地図	○社会事象の関連がつかみやすく、分析・統合することによって傾向性がつかめる。 ○地図は、事象の分布や広がり、位置を捉えやすい。
現物資料	地域環境、遺跡、遺物、 民具、現在社会で使用中の 実物、標本、模型、 観察記録	○観察することで、具体性があり、確実性、親近感が湧く。 ○多様な思考を引き出す材料となる。 ○五感を通して感じ、操作活動につながる。

\*子ども達の学習意欲を高めるため、子ども達の作品も積極的に資料として活用させたい。

### 3 指導過程における資料の位置づけ

学習資料は、学習のめあてを達成するために用いられる。課題解決の学習過程に的確に位置づけられ、有効に活用されてこそ価値がある。どんな資料を、いつ、どこで、どのような順序で提示し、どう見せれば思考の素材になりうるか。また、それによりどんな能力・態度が期待できるか、子どもの思考の道筋をも考慮しながら指導過程の中に位置づける必要がある。

問題解決をめざす学習過程は様々あるが、ここでは、子ども達の主体的調べ学習をめざす意味で一単元一サークルの指導過程を考え、資料の位置づけを試みてみたい。

	学習活動	教師の働きかけ	資料の条件・内容	必要とされる力
事実認識	○資料や事実を調べた中から、わかったこと、わからないことや疑問点を明確にさせる	○資料を提示し、事実を確かめる中で、意外性のある事態に直面させる。 ○子どもに疑問を持たせ、話し合いのなかで疑問をさらに焦点化し、追究の意欲を持たせる。	○写真、絵、スライドのような具体性があり、感性に訴えることのできるもの。 ○興味・関心をそそるもの。 ○子どもの常識を破る意外性のあるもの。	○事実や事象をありのまま観察し、それをありのまま受け取る力。 ○事実を経験と結びつけ、

課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの疑問点を明らかにし、討論あつて小単元の中心概念に迫る課題に練り上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題は小単元の中心概念に迫るものを創らせる。</li> <li>○子どもの考えと提示された資料の間に大きなズレを起こさせることにより、一人ひとりに学習課題をつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの思考を揺さぶり、(資料と体験で・資料と資料で) 多様な反応を促すもの。</li> <li>○目標に迫って行けるもの。</li> <li>○共通のイメージを持たせるために、学習の方向や領域が暗示されているもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑問や問題を見つけ出す力。</li> <li>○課題を見つける力。</li> </ul>
予想・仮説・学習計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根拠を明らかにして予想を話し合う。</li> <li>○追究の見通しを持つ。</li> <li>○自由な発想で多様に仮説を立てる。</li> <li>○仮説の検証方法を話し合い、検証計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を与え、思いつきの予想から根拠のある予想へ変容させる。</li> <li>○根拠のある予想により、調べる資料を具体的に確認させる。</li> <li>○実際に具体的事象を観察したり、調べたりすることの必要性を感じさせる。</li> <li>○何を何で調べればよいか見通しを明確にし、検証計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予想や仮説を立てるヒントとなるもの。</li> <li>○事実が具体的によくわかり、誰もが学習に参加できるもの。</li> <li>○問題の本質を発見的に見通すことができるもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既存の経験や知識を働かせ予想を立てる力。</li> <li>○問題を概観整理し、解決の予想を立てる力。</li> <li>○根拠をあげて自分の考えを主張する力。</li> <li>○筋道の通った学習の順序や進め方を考える力。</li> <li>○課題解決に必要な資料を捜す力。</li> </ul>
検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料・見学・調査などで検証する。</li> <li>○調べる観点にしたがって資料を収集したり観察調査してまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○検証計画にしたがって課題解決のための資料を収集選択させる。</li> <li>○学習に行きづまらないよう、必要な資料をできるだけ準備して置く。</li> <li>○見学調査では、見学のめあて、視点、まとめ方を指</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予想や仮説に対し証拠となるもの。</li> <li>○異同や因果関係が見つかりやすいもの。</li> <li>○実物や録音テープのような人間の気持ちがかめる実感の裏づけを持たせるようなもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を収集選択する力。</li> <li>○資料を正確に読み取る力。</li> <li>○資料から事象を多面的に読み取る力。</li> <li>○いくつかの</li> </ul>

<p>検 証</p>	<p>○まとめたことを話し合う。 ○友達の見方・考え方を知り、観点を修正し、より多面的に見ることができるようにする。 ○解決に向けて話し合いを深める。</p>	<p>導する。社会の現実、人間の生き方を感じ取らせる。  ○発表のための準備や聞き方の指導をする。 ○友達の出した結論と自分の結論を正しい方向へ修正していくようにさせる。 ○意識を覆すような資料や発問により中心概念に迫るような解決をさせる。 ○学習課題のまとめは、教師の助言も加えられ、論理的な中心概念の形成がなされるようにする。</p>	<p>○思考を深め論理性の強いもの。 ○子ども自身の力で読み取れるようなわかりやすいもの。 ○子ども達の表現を助ける役割を果たすもの。 ○子どもの予想を越えた事実を含むなど思考を揺さぶるもの。 ○話し合いが焦点化できるもの。 ○事実の持つ意味、事実の背景にある法則性をつかみ取ることを助けるもの。 ○子どもの実態に即し、細かく深化、発展させる資料。</p>	<p>資料をつないで関係点を見つけたり背景を推理する力。 ○読み取ったことを適切に表現する力。 ○新しく獲得したことから共通なものを探したり区別したりする力。 ○社会事象の本質的意味をとらえる力。</p>
<p>ま と め</p>	<p>○学習課題を振り返り、結論を出す。 ○ノートや新聞などに学習したことをまとめる。 ○学習方法について反省する。</p>	<p>○社会的意味がとらえられるようなまとめ方をさせる。 ○とらえ、整理したことは次の発展学習へつなげるようにする。</p>	<p>○過去の経験と本時の学習を結びつけるようなもの。 ○新しい課題に気づく要素を含んでいるもの。</p>	<p>○本質的意味を現実の社会の事実や事象に当てはめて考える力。 ○自己評価できる力。 ○新しい問題を見つけ、発展的に考える力。</p>

4 資料活用能力を育成するために

(1) 資料活用能力とは

資料のありかを見つける力……子ども達が調べ学習をするときに、まずぶつかる問題は、自分の調べたい資料がどこに行けば見つけられるか。何から見つければよいかという事である。教師はあらかじめ資料のありかをつかんでおいて、子ども達に適切なアドバイスを与えられるようにしておかなければならない。

資料を収集・選択する力……資料をたくさん見つけても、それが課題解決に結びつくものでなければ意味がない。資料を吟味、分類、整理したりして、課題解決に役立つものかどうか。その有効性を考え、選択する必要がある。

資料を再構成する力……選択された資料は、そのままでも十分使えるものもある。しかし、ねらいに合わせて、より具体的にわかりやすく伝えられるよう作り替えることも大切である。資料を組み合わせたり整理、拡大、図表化したりして再構成する力も必要となる。

資料を活用する力……1枚の資料には数多くの事実が隠されている。その中から、問題解決に必要な事実を読み取ること。また、いくつかの資料から読み取ったことを分析検討し、関連的・総合的に解釈し、社会的意味をとらえて行くこと。資料を活用する力は、資料を自由に駆使し、問題解決を可能にするためにはもっとも大切な力である。

資料について評価する力……選択、作成、活用した資料が、学習のめあての達成のために、量的・質的に適切なものであったか、教師はもちろん、児童からも評価する必要がある。

これらの力は、一朝一夕に身につくものではない。子どもの発達段階を踏まえ、着実に積み上げて行くようにしたい。

(2) 学習指導要領による資料活用能力の育成

	資料活用目標	留意点
三 年	○ 地域社会における社会的事象を具体的に観察し、地図その他の具体的資料を効果的に活用することができるようにする。	○ 地図に親しませ、具体的に使用させ、使用の仕方を学ばせる。 ○ 実物資料は、実際の様子（使っている）のわかる資料を意味する。 ○ 実際に観察できないものは、視聴覚資料を使って指導する。 ○ 年表活用で、年代を取り上げることはさしつかえないが、年代を追って指導することは避ける。 ○ 国内や外国の地名については、掛け地図などを活用して位置は押さえる。
四 年	○ 地域における社会的事象を具体的に観察し、地図や各種の資料を効果的に活用できるようにする。	○ 地図を使って、国土の位置、地形、気候などの概要について調べ、特色をつかむこと。白地図に記入すること。
五 年	○ 地図、年表、統計などの基礎的資料を効果的に活用できるようにする。	○ 情報の正しい収集や活用の仕方、伝達の方法を身に付けることが大切であることに気づかせる。 ○ 資料の収集・選択だけでなく、資料から得た情報について、他に伝えること、資料をもとに自ら新しく情報を創ることができるようにする。 ○ 複数の資料を用いて、そこから読み取ることのできる傾向・特徴をとらえることができるようにする。

六 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地図・年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歴史における観察の仕方の指導を大切にする。</li> <li>○ 資料の収集・選択とともに、資料から得たことの伝達、つまり、いろいろな形式を用いての表現と自分の考えを發表させることを取り入れ、資料活用の範囲を拡大する。</li> <li>○ わが国と交流の深い国を取り上げるとき、世界地図とともに人々の生活がわかる視聴覚資料について準備することも大切である。</li> </ul>
--------	--	---

(3) 資料活用能力を高める工夫

- ① 資料を効果的に活用させるためには、ふだんから、子ども達に資料を見る目を養っていくよう意図的な指導が求められる。

部分の見方……何が、どれだけ、どのように、どんなことを  
 関係の見方……何と何がどうだ。何はどうなのは何はどうだ。  
 全体の見方……全体としてこうだ。こういうことがいえる。  
 疑問の見方……これは何だ。これはどうしてだろう。これだけではわからない。  
 想像の見方……これは……らしい。これからみると……にちがいない。

- ② 子ども達に、資料に働きかける姿勢を育てる事も大切である。子ども達から資料に問わせたいことは、社会的事実であり、社会的意味であり、自分との関わりの3つの事である、問いを持たせるようにするには、

作業をさせる。  
 事実を確かに見せる。  
 子どもの思考の曖昧さを突く。  
 意志を突く。  
 固定観念をひっくり返す。

以上のような場面を授業の中に仕組んで行く必要がある。

- ③ 子ども達が調べ学習のときに一番悩むのは、まとめ方であるようだ。調べたことを相手に的確に伝えるためには、どんな表現が適当であるかを考えて行ける力もつけていきたい。

文章による表現……カードにまとめる、ふきだし、見学記録、感想文など。  
 造形による表現……絵画、紙芝居、模型作りなど。  
 地図による表現……絵地図、白地図、歴史地図など。  
 統計による表現……統計表、統計グラフ、統計地図など。  
 調査による表現……学習ノート、レポート、年表、新聞など。  
 劇化による表現……寸劇、放送劇、ペープサートなど。



#### IV 授業実践例

#### 第6学年 社会科学学習指導案

##### 1 単元名 源頼朝と鎌倉武士

##### 2 単元について

###### (1) 単元のとらえ方

武士が、貴族に代わり初めて政権を握ったのが、この鎌倉時代である。1180年、伊豆に流されていた源頼朝は、平氏打倒の兵を挙げる。武士の世の実現を願っていた東国武士の力を背景に平氏の打倒に成功した頼朝は、全国に守護・地頭を配置し、鎌倉の地に幕府を開く。頼朝は、自分の旗のもとに結集した武士たちと、土地を仲立ちとした主従関係を結ぶ。その武士の土地を保障する代わりに、戦いがあれば頼朝の元に参戦する、という契約である。源氏は三代で滅び、北条氏が実権を握るが、幕府と御家人の主従関係は本質的に変わらない。この主従関係が、源頼朝に代表される幕府の農村における実権を確立し、鎌倉幕府の成立を可能にしたのである。

幕府が御家人の生活を保障できなくなったとき、この時代は終焉を迎える。その契機となったのが元寇である。莫大な戦いへの出費にもかかわらず、外国との戦いゆえに恩賞となるべき土地はもらえない。御家人の生活は困窮化し、その心は幕府から離れて行くのである。

鎌倉時代は、鎌倉幕府と御家人の御恩・奉公の主従関係で成立していた時代である。幕府の御家人となる武士たちは、ふだんは地方のそれぞれの土地で農業を営み、農民を管理し、自分の土地を守るため武芸を磨いていた。後の城下に集められた武士の生活との違いは、この点にある。

###### (2) 児童について

授業に取り組むに当たって、その1か月前に、①調べ学習の実態、②資料の読み取り具合、③鎌倉時代についての知識を知るため、児童の実態調査を行った。

調べ学習に関しては、50%の子どもがふだんから取り組んでおり、子どもの歴史学習に対する関心の高さがわかる。しかし、調べ学習をするときに困っている点を探してみると、資料のありかの見つけられない子や解決すべき課題の見つけられない子が32%、教科書や参考書に書いてある内容が理解できずに困っている子が12%、調べた後のまとめ方がわからず困っている子が35%いることがわかった。

資料の読み取りに関しては、絵画資料と地図資料から実態を把握するようにした。その結果、絵画資料に関しては、人間の動きだけをとらえている子が34%、社会背景まで広げてとらえようとしている子が23%、まったく読み取れない子が50%いることがわかった。地図資料に関しては分布状態をつかめる子が41%いるものの、社会背景を考えられる子は19%、読み取れない子が40%いることがわかった。また、二つの資料を関連づけてなんらかの考察のできる子は皆無で、資料の読み取りの訓練の必要性を感じる。

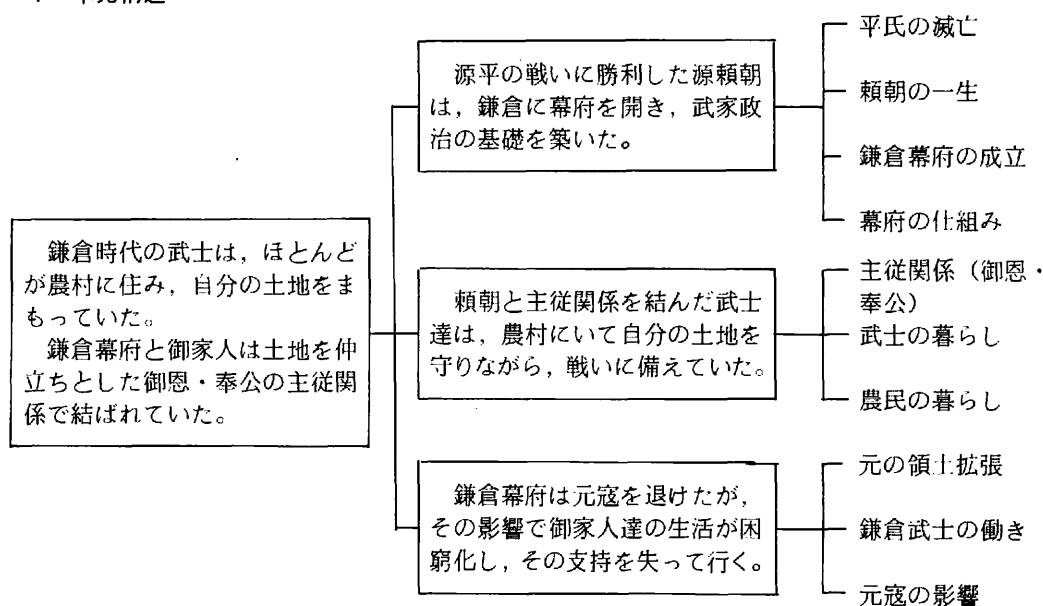
鎌倉時代についての知識に関して、平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗の名前は76%の子どもがすでに聞いたことがあると答えている。しかし、人物の業績について知っている子は22%しかいない。また、「いざ鎌倉」「源氏と平氏」等の歴史用語を知っている子は皆無で、元寇だけは17%の子が知っていた。

このような児童の実態を踏まえ、この単元での指導計画を設計していった。鎌倉武士の生活の様子は武家造りと寝殿造りの家の構造や暮らし振りの比較から考える。幕府と御家人の結びつきは、源頼朝のおいたちや、頼朝に従った武士達の気持ちを通してとらえさせるようにする。資料の読み取り方に関しては、事実認識と課題把握の段階で特に力を入れ、参考資料は教科書、資料集を中心に収集させるよう予想の段階で指導する。資料の活用の仕方については、ノートやワークシートを工夫する。資料から読み取ったことをよりわかりやすく友達に伝えるためには、資料の再構成が必要となる。表現活動の工夫を通して、資料の解釈を深めるようにしたい。

### 3 単元目標

- 鎌倉時代の武士は、ほとんどが農村に住み「いざ鎌倉」に備えて武芸に励んでいたことを知る。
- 鎌倉幕府と御家人は、土地を仲立ちとした御恩・奉公の関係で成り立っていたことをとらえる。
- 課題解決のために必要な資料を集めたり、資料を読み取ったりして調べたことを新聞などにまとめ、自分の意見を持つことができる。

### 4 単元構造



### 5 指導計画

過程	ねらい	学習活動・学習内容	資料	留意点
事実認識	武士の屋敷は農村にあり、戦いに備えた暮らしをしていることに気づき、これから調べたい	1 貴族の暮らしの絵を見ながら、既習事項を想起する。	絵（貴族の暮らし）	○ 貴族の暮らしを復習する。
		2 武士の屋敷の絵と貴族の屋敷の絵を比べて、気づいたことを話し合う。	絵（貴族の暮らし、武士の暮らし）	○ 武士の屋敷は農村にあり、質素であることに気づかせる。
		3 武士や農民の描かれている	絵（人間が入	○ 武士たちの様子を細か

<p>ことを明らかにする。 (1/6)</p>	<p>る武家屋敷の絵を見て、生活の様子を読み取る。</p> <p>4 武士が農村に住んでいた時期を調べる。</p> <p>5 絵を見て、疑問に思ったこと、調べてみたいことをノートに書き、発表し合う。</p>	<p>った武士の屋敷)</p> <p>年表(平安末～江戸)</p>	<p>く観察させ、戦いに備えた生活を送っていることを押さえる。</p> <p>○武士に対する既成概念とのズレに気づかせる。</p> <p>○教科書の年表を利用して調べさせるようにする。</p> <p>○武士の生活をさらに詳しく調べるためにひとつの資料では限界があることに気づかせる。</p>
<p>平氏を含む多くの東国武士が源頼朝に期待をよせた事実を知り、学習課題を作る。 (2/6)</p>	<p>1 武士達が武芸に励んでいた時代背景を調べる。</p> <p>2 関東の武士団の勢力分布図を見て話し合う。</p> <p>3 源頼朝の平氏打倒の挙兵に呼応した武士達を調べる。</p> <p>4 武士達の願いを想像させる。</p> <p>5 疑問もやっとならぬ調べたいことを発表する。</p> <p>6 学習課題を決める。</p>	<p>年表(平安末～鎌倉)</p> <p>[資料2] (ノート1)</p> <p>地図(源頼朝の挙兵-平氏と源氏に色分けしたもの。頼朝の挙兵に呼応した武士。)</p> <p>絵(武士の屋敷)</p> <p>[資料1]</p>	<p>○武芸に励んでいたことと戦いが多かった事実や源平の争いが起こっていた事実と結びつけて考えられるようにさせる。</p> <p>○伊豆の周りには平氏が多いことをつかませる。</p> <p>○平氏打倒の挙兵に関東の平氏の多くが呼応している事実を知り、疑問を持たせるようにさせる。</p> <p>○武士達にとって一番大切なものは何かを考えさせながら、願いを想像させる。</p> <p>○土地を守ったり、与えてくれる人の存在を感じさせるようにする。</p> <p>○これまでの資料すべてから自由に課題を見つけさせ、個人個人が自分なりの疑問を持てるようにさせる。</p> <p>○課題を3種類ぐらいにまとめるようにさせる。</p>

課題

把握		<p>武士の暮らしを詳しく調べてみよう。</p> <p>源氏はどのようにして平氏を滅ぼしたのか。</p> <p>源頼朝はどうやって味方を増やしたのだろう。</p>		
予想する・学習計画 検証する	<p>自分なりの予想を出し、調べる計画を立て、検証する。 (3, 4 / 6)</p> <p>○課題について調べる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題に対する答えを予想する。</li> <li>2 課題解決のための見通しを持つ。</li> <li>3 調べる計画を立てる。</li> <li>4 まとめ方を知らせる。</li> <li>5 グループに分かれ、課題について調べ学習をする。</li> <li>6 調べたことをまとめる。</li> </ol>	<p>(ノート2)</p> <p>読み物(政子の言葉、鉢の木物語、平家物語) 絵(武士の屋敷、平氏と東国武士の食事) 図表(御恩・奉仕、幕府の仕組み) 地図(源平の戦い、平氏の知行国、鎌倉幕府の勢力範囲)等の資料</p>	<p>○自由に想像させる。予想の立たない場合は無理には出させない。</p> <p>○何を調べれば答えが見つかりそうか、どんな資料を使ったら課題が解決できそうかを考えさせる。</p> <p>○課題ごとにグループを作って調べさせる。</p> <p>○地図、図表、年表、紙芝居、劇化などいろいろな表現の仕方を参考例を出しながら知らせる。</p> <p>○予想を検証するための調べ学習をさせる。</p> <p>○教科書・資料集・課題解決に必要な資料は教師のほうでも準備しておくが、一方的に出すのではなく、児童のほうから求めさせるようにする。</p> <p>○調べたこと、わかったことをノートにまとめた、はっきりしないことをグループで話し合わせ調べたことを確かなものにさせる。</p> <p>○ひとつひとつの資料の</p>

検 証			を準備しておく。	読み取りをしっかりとせるとともに、資料の限界にも気づかせる。 ○資料と資料を関連づけて考えたりして、考察を深めるようにさせる。 ○調べ方の分からない児童については、個別指導をする。 ○グループ毎に発表の仕方を工夫させる。
	源頼朝と御家人は、土地を仲立ちにした御恩・奉公の関係でつながっていた事を知る。 (5/6)	<p>7 調べたことを工夫してまとめる。</p> <p>1 学習課題を確認する。</p> <p>2 まとめたことを発表する。</p> <p>3 発表を聞いての疑問を出したり、自分の調べたこととの違いを見つけ、話し合う。</p> <p>4 発表の補足をする。</p> <p>5 一所懸命のことばの意味を確認する。</p> <p>6 発表からわかったことをまとめる。</p>	<p>子どもの作品 (ノート3)</p> <p>読み物(鉢の木物語)など</p>	<p>○調べたことと課題を常に結びつけて考えるようにさせる。</p> <p>○発表内容をメモしながら聞かせ、わかったこと、わからないこと、もっと知りたいことを明らかにさせる。</p> <p>○それぞれのグループの発表内容をしっかり把握させる。</p> <p>○子ども達の調べた後の疑問を大事にし、さらに調べる意欲を持たせる。</p> <p>○児童の発表内容の不十分な部分については教師から資料を提示して、さらに思考を深めるようにする。</p> <p>○武士にとって大事なものは、土地であることを確認する。</p> <p>○それぞれの発表を結びつけて頼朝と東国武士の結びつき、武士の暮らし</p>

				などを具体的にとらえさせるようにする。
まとめ	<p>○元寇で、武士たちはまとまってよく戦ったが、その恩賞が十分得られず、幕府への不満が高まっていったことを知る。</p> <p>(6/6)</p>	<p>1 元の領土、元軍の進み方を調べる。</p> <p>2 元軍との戦いの様子を調べる。</p> <p>3 元軍が破れた理由を考える。</p> <p>4 戦いの後の御家人の様子を調べる。</p> <p>5 単元のまとめをする。</p>	<p>地図(元の領土・元軍の進路図)</p> <p>絵図(元との戦いの模様)</p> <p>表(元軍の構成図)</p> <p>絵図・読み物(報償を求める御家人)</p>	<p>○元の国土の大きさを知らせ、元寇への緊張感を感じさせる。</p> <p>○武器の違い、戦法の違いなどから戦いの困難さを知らせるようにする。</p> <p>○征服された国の人々の気持ちを考えさせるようにする。</p> <p>○御家人にとって大切なものを思い出させ、御家人達の幕府に対する気持ちを予想させる。</p> <p>○学習してわかったことを作文にまとめさせる。</p>

## 6 本時の展開

(1) 題材 源頼朝と鎌倉武士

(2) 本時のねらい

- 武士たちは農村で質素な生活を営み、戦いに備え武芸に励む毎日を送っていたことを知る。
- 資料の読みとりを通して、時代の概要をつかみ、今後の学習に興味を持たせる。
- 資料の読みとりを通し、はっきりしないことに気づき、学習課題を持つことができる。

(3) 本時の展開 (1/6)

学習内容・学習活動	資料	指導上の留意点
1 貴族の暮らしを想起する。	TP (寝殿造りと貴族の暮らし)	○ 貴族は都に住み、華やかな生活を送っていたことを確認する。
2 武士の屋敷の絵を見て、寝殿造りとの違いを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家の造り</li> <li>○ 敷地内の様子</li> <li>○ 塀の造り</li> <li>○ 家の周りの様子</li> </ul>	TP (武士の屋敷)	○ 武士の屋敷は農村にあり、屋敷の周りは堀で囲まれ、質素なくらしぶりであることに気づかせるようにする。

3 農村における武士や農民の生活の様子を調べる。	TP (武士の屋敷 図に動物、人間を 加えたもの) [資料1, ワーク シート]	○武士の様子, 農民の様子を細かく観察させ, どの部分からどんな事が分かるのかははっきりさせる。
4 貴族の暮らしとの違いを確認する。		○武士たちは戦いに備えた暮らしをしていることを確認する。 ○図の全体的特徴をとらえさせる。
5 武士達が武芸に励んでいたその時代背景を調べる。	年表 (平安末～鎌倉) [資料2]	○武芸に励んでいた事実, 源平の戦いがあった事実を関連づけて考えるようにさせる。
6 絵や年表を見て, はっきりしないことや疑問などを出し合い, 学習課題を決める。		○さらに知りたいことが見つけれられるよう, 資料の限界に気づき, これからの学習に興味を持たせるようにする。

(4) 評価

① 授業者について

- 資料の提示の仕方は適切であったか。
- ワークシートは使いやすく工夫されていたか。
- 資料の見方のわかる適切な助言がなされていたか。
- 児童の興味・関心を持続させるような授業の流れだったか。
- めあてを達成できる資料であったか。
- 興味・関心を持たせる資料であったか。
- 考えを深める発問ができていたか。

② 児童について

- 資料に興味を示していたか。
- ワークシートを使いこなしていたか。
- 友達の発表をよく聞いて, 自分のものと考え合わせて記録していたか。
- 資料を読み取って, 疑問やはっきりしないことが書けているか。
- 資料の内容を読み取って発表することができたか。

7 授業の記録

授 業 の 流 れ	考 察
1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">貴族の暮らしを想起する。</span> T これまでに平安時代の貴族の暮らしを勉強してきましたね。 (TP1 提示) どのような家に住んでいましたか。 C 寝殿造り。 (発表を板書する。)	

- T どんな生活をしていましたか。  
 C 遊んで暮らしていた。C ぜいたくで豊かな暮らしをしていた。  
 T どこに住んでいましたか。  
 C 都 C 京都

2 武士の屋敷の絵を見て、寝殿造りの屋敷との違いを話し合う。

- T 今日は、こういう家に住んでいた人達の勉強をしましょう。  
 (TP2 提示)  
 寝殿造りの家と比べてどんなところが違いますか。  
 C さっきの家よりも、家の大きさが小さいです。(発表を板書)  
 C 部屋が決まなくて、一か所でみんな眠りそう。  
 C 池がない。 C 広さが狭そう。 C 家が粗末です。  
 C 屋根なども木でできているみたいです。 C 馬小屋がある。  
 C 運動するような広場がある。  
 C 貴族が住んでいるうちではなさそうです。  
 C さっきのうちはつながっていましたが、家が一棟ずつ分かれていて、庭も広くない。  
 C 貴族の住んでいた都に比べ、周りが田舎っぽい。  
 C 寝殿造りの家と比べて、家とか門等で貧富の差がよく分かる。  
 T 家の周りを見てください。寝殿造りの家とどんなところが違いますか。  
 C まわりに川がある。  
 T 堀ですね。この屋敷にはどんな動物がいそうですね。  
 C 馬 (TP3 提示)

3 農村における武士や農民の生活の様子を調べる。

- T この絵の中に、住んでいた人を入れてみましょう。  
 どんな人がいそうですね。  
 C 武士 (TP4 資料1 提示)  
 T これからこの絵と同じプリントを配ります。どんなことをしている人がいるか、一人ずつ詳しく見て行きましょう。(ワークシート配布)  
 T この絵の中に全部で何人の人がいますか。  
 C 26人。  
 T 一人一人について何をしているところか。ワークシートに書き込んでください。(机間巡視して、書き込みのできていない子にやり方を説明する。) (作業時間約15分)

TP1とTP2を同時に並べて見せたほうが、比較しやすかった。

実際に敷地が狭いかどうか。馬を走らせていることと結びつけて考えさせてもよかったが、屋敷の広さは検証の段階で押さえない。

どうして堀のようなものがあるのか理由を考えさせた方がよかった。



人数から屋敷の広さを予想させてもよかった。

時間を取り過ぎた。



T これから前にきて発表してもらいますが、どの人から何をしていることがわかるのか、きちんと絵をさして発表してください。

C (TPの絵を指しながら)この人達から、田植えをしていることが分かります。(発表をすべて板書)

C この人から、畑を耕していることが分かります。

C この人達から、大事な話をしていることが分かります。

C 種をまいていることが分かります。 C 門番をしている。

C 馬に乗って弓を射っている様子が分かります。

C 牛で田を耕している。 C 馬の手入れをしている。

C 剣の練習(稽古)をしていることが分かります。

C 矢を飛ばす練習をしていることが分かります。

T (図の中の人を指しながら)この人は何をしていますか。

C 剣の手入れをしている。

T 馬屋を見てください。屋敷のどんな所にありますか。

C 左側。 C はじっここの部分で道に近い。 C 門の近く。

T 門の近くにあるとどんなことがいいのでしょうか。

C すぐ出られる。

4 貴族の暮らしとの違いを確認する。

T この絵の人たちはだれでしたか。

C 武士です。

T この絵の武士の暮らしの様子を表していますね。この絵全体を見てどのようなことがわかるか、ワークシートに書いてください。

T 発表してください。

C 貴族は遊んでいたけど、武士は馬の世話や稽古をして、仕事をしている。(板書する。)

C 武士の暮らしは貴族のように豊かではなく、忙しいということが分かりました。その忙しい理由は、いつ戦ってもいいように弓などの練習をしていたからです。(板書する。)

C 武芸に励んでいる。(板書する。)

5 武士が武芸に励んでいたその時代背景を調べる。

T 武士はふだんから馬に乗ったり、弓矢の練習をしたりして戦いに備えていたことが分かりますね。武士達はどのように戦いに備えた生活をしていたのか、年表からその理由を考えてみましょう。(年表提示)

考えの根拠を明らかにさせるよう、発表のやり方を始めに示した。誰もが発言できるように意図して、表面的に見えることを言わせた。

これらの行動から、どんなことが分かるかという事まで考えさせたら読み取りがもっと深まり、児童の多様な反応が期待できたのではないかと。塀が低いこと、櫓などにも注目させるべきであった。資料の見せかたで押さえが弱かった。後の授業で押さえたい。

時代の特徴がつかめ、多くの事象を見せることができたので、導入にこの資料を使ったのはよかった。

もっと多くの子どもに発表させてもよかった。

戦いに備えていることの押さえが弱かった。

資料をつないで、事実の時代背景を探らせようとした。

年表に書かれている内容は適切だった。

- C 平氏滅びる。頼朝、守護・地頭を置いたということです。
- C 保元の乱が起こるのでそれに勝つために戦いの準備をしたり、武芸に励んでいる。
- C 源頼朝、平氏を滅ぼすために兵をあげる。
- C 平治の乱が起こる。
- T 武士達がこのような暮らしをしていた理由はたくさんあるのですが、この年表の中からは、平氏と源氏が戦っていたこと、戦いが多かったためということが分かりますね。それでは時間がきてしまいましたので、続きは次の時間に回します。

[資料2]  
年表

鎌倉時代	平	安	時	代
1190	1180	1170	1160	
源頼朝、征夷大将軍に任ぜられ、鎌倉に幕府を開く。	源頼朝、平氏をたおすため兵をあげる。平氏、ほろびる。頼朝、各地に守護・地頭を置く。	平清盛、太政大臣になり、平氏栄える。	平治の乱がおこる。敗れた源頼朝、伊豆に流される。	保元の乱がおこる。

年表から事象を読み取ること、資料を関連づけて考えることができず、児童が気づくまでに大変時間がかかった。資料を関連づけるための見せ方の工夫が必要だった。計画の内容が欲ばりすぎていた。この時間は、武士の屋敷の図だけにして子どもの持っている武士のイメージとの違いを明らかにし、武士が農村に住んでいた時期を押さえ終わればよかった。

[ノート・表現活動の工夫]

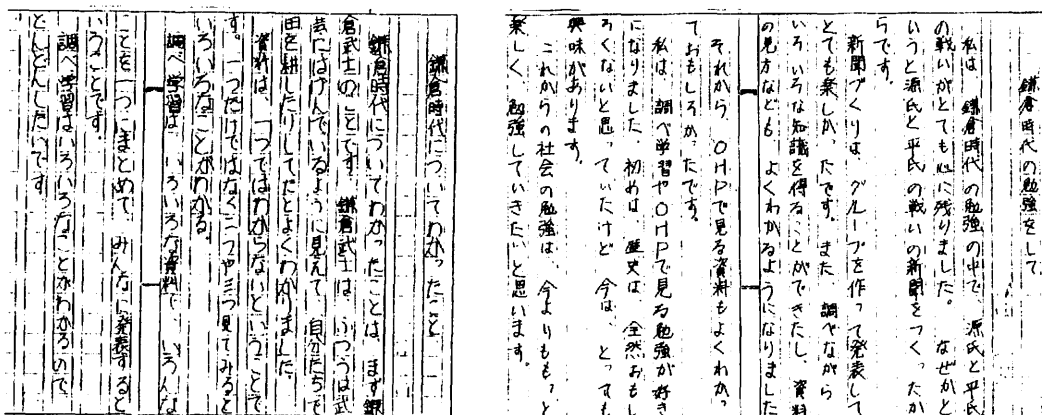
資料からの読み取りを確実にし、子ども達一人ひとりに自分なりの見方・考え方を持たせるようにしたい。そのため、指導過程の各段階での記録(ノート)のさせ方を工夫した。

(ワークシート)









## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 まとめ

学習のめあてを達成するため、単元構成をしっかりとすること。教師が資料の選択と提示の仕方などを工夫することにより、子ども達は資料の読み取り方がわかる。資料を指導過程に適切に位置づける事により、子どもたち誰もが課題意識を持つことができ、調べ学習に意欲的に取り組む。子ども達の資料活用能力を育てるためには、まず、教師自身が資料活用能力を磨くことが大切であることを痛感した。

### 2 今後の課題

一つの資料から多面的な見方のできる子どもを育てたい。しかし、資料の読み取りを深め、多様な反応をさせるためには、どのような発問をすればよいのか。発問・指示の仕方と調べ学習の後の表現活動をどのようにさせて行くかの研究を深めて行きたいと思う。

### 終わりに

せめて一単元でもいいから、じっくりと教材研究に取り組み、納得が行く資料収集がしたい。

子ども達が喜んで学習に取り組めるような指導法の研究をしたい。口頃の切実な願いが実現しました。十分に思考錯誤のできる時間（研修の機会）を与えてくださった関係各位の皆様、暖かく御指導くださいました知念政俊先生はじめ多くの先生方に心から感謝いたします。

### 主な参考文献・引用文献

有田和正著	著作集「追求の鬼を育てる」2・4	明治図書	1989年
有田和正著	授業のネタ シャカイ3（高学年）	日本書籍	1988年
石井政雄著	考える社会科を創る資料収集と活用	明治図書	1983年
沖縄県教育委員会 昭和53年度研究報告書			
沖縄県立教育センター 小学校社会科長期研修報告書 昭和59年度～63年度			
佐島群己他著	社会科指導の基本と発展2 資料の収集活用と授業	教育出版	1989年
里野清一著	子どもを育てる社会科授業の急所	明治図書	1982年
高野尚好著	改訂小学校教育課程講座 社会	ぎょうせい	1989年
古川清行他著	子どもが生き生き学ぶ社会科 小学校6年	東洋館出版社	1990年